

Hello♪



ほめる子育てひろば

品川区教育委員会教育委員 富尾 則子

「ほめる子育て」が言われて久しいので、すでに実践されている方も多いと思いますが、いかがでしょうか？

私は所属している病院でグループの「ペアレントトレーニング（ペアトレ）」を行っています。これは、発達障がい児の保護者に対して行われるトレーニングです。行動に注目して「ほめる」ことが基本となっていますが、障がいのない子にも用いられることもあり、私自身、子育ての中で、この中のエッセンスが役に立つと感じることがありますので、少しご紹介したいと思います。

まず、当然「ほめる」こ

とが基本になります。そのほめ方も「いい子ね」ではなく、その行動が好ましい行動だった、と注目していることを子どもに伝えることが、「ほめる」ことになります。

普段ご家庭では、だいたい同じパターンで親子ゲンカになっていませんか？心の中で、「また、やっちゃったわ」と、反省しつつ、そのパターンを変えるのは少し難しいですね。

ペアトレでは、子どもの行動観察をして、些細な好ましい行動に対して、ほめるようにします。その方法も、大げさに抱きしめる方法から、視線を合わせて笑顔を返すなど、その子そ

の子にあったやり方があります。ほめるのが難しい場合も、「ありがとう」なら言いやすいようです。

タイミングも大切で、好ましい行動をやりかけた瞬間にすかさずほめるようにします。やり終えた時ではなく、行動を応援し続けるために。たとえ子どもが文句を言ったり、ふてくされた顔をしていたりしても、3回声かけて、できたら「OK」サインを出します。

けれど、これで全てを解決できるわけではありませんし、時に親の忍耐力を試されているように感じることがあります。普段と違うやりとりをすることで、少し心の余裕ができます。

「うちの子は好ましい行動がないので、ほめられない」とか「そんな当たり前のことをほめてもいいのか心配」などの意見もありますが、試しにやってみると雰囲気少し変わること、気付くかもしれません。

子育てには正解がありませんし、何くれとなく忙しい日々の生活を切り回すことで精一杯になりがちです。学校や幼稚園、保育園で頑張っただけでいる子どもたちが、家庭ではリラックスしながら、ほんの少しづつでもできることが増えると嬉しいですね。

平成28年2月20日

「品川区教育フォーラム」を開催しました

品川区教育フォーラム
品川教育ルネサンス
- For The Next Generation -



立会小学校 スクールプロモーション

品川区は、小中一貫教育をはじめとする様々な教育施策に取り組んでいます。

今、学校教育法の一部改正等、教育界は転機を迎えており、本区ではこの機を捉え、「品川教育ルネサンス・For The Next Generation」を掲げ、次代を担う子どもたちのための新しい「品川教育」の創生を目指しています。

今回のフォーラムでは、今まで培ってきた学校のよさやこれからの取組について、区民、全国の教育関係者に向けて、発表しました。

午前中は、各校で特色ある教育活動の授業公開と学校説明会を実施しました。

学校説明会では、品川区の教育施策DVDの上映、児童・生徒が自校のよさをアピールするプレゼンテーション等のスクールプロモーションが行われました。保護者や地域の方々を中心に、区立全校合せて13721人の方が参加し、区の教育の成果を子どもたちの姿で確認しました。

午後は場所をきゅりあんに移し、「品川教育ルネサンス・To The Next Generation」をテーマとした全体会が行われ、全国の教育関係者、地域や保護者、合



濱野 健 区長



下村 博文 氏



伊東 哲 氏

せて632人が参加しました。

開会に先立ち、濱野区長の挨拶では、義務教育学校の制度化や総合教育会議の実現などに触れ、本フォーラムを機に小中一貫教育、保幼小の連携などが更に推進されることへの期待が語られました。

御来賓の衆議院議員・前文部科学大臣下村博文様からは、現在の子どもたちが生きることになる将来の社会状況とこれから必要になる能力、教育の必要性等、教育関係者に対する激励を込めた挨拶がありました。

東京都教育庁の伊東哲指導部長からは、都の方針に基づいて進めている事業であるオリンピック・パラリンピック教育等について区との連携した推進の必要性が強調されました。

《講演》

「教育再生実行会議が目指すもの」

早稲田大学 総長

教育再生実行会議 座長

鎌田 薫 氏

続いて行われた講演会の概要です。

1 なぜ今教育か

少子高齢化の進展やそれに伴う経済成長の鈍化等により、社会保障制度の存続が困難になり、格差が拡大するなど、「成長し続け、安全で安心して暮らせる社会」「二人一人の豊かな人生」のいずれも実現しない恐れがあります。

一人一人の生産性を向上させるため、教育の充実が不可欠です。しかし、教育現場を取り巻く課題は複雑化・多様化しており、社会としての支援が必要となっています。

2 教育改革のけん引力としての

教育再生実行会議

日本の再生は、「経済の再生」と「教育の再生」が車の両輪となります。教育改革をけん引するために、現在までに第8次提言

を行いました。

今後は、情報化時代に求められる「多様な個性が長所として肯定され生かされる教育」への転換をテーマに検討を継続します。

3 教育再生の実施状況

有識者で「提言フォローアップ会合」を設け、確実な実行を目指し取り組んでいます。

《トークリレー》
全体テーマ

「品川教育ルネサンス

-For The Next Generation-」

司会

中島 豊 教育長

アシスタント

沖津 那奈 アナウンサー

トークリレーでは、これから区が目指す新しい「品川教育」の創生の3つのテーマを、関係者のインタビューを中心に解説しました。

テーマ1

「義務教育学校」の設置

名城大学教授

木岡 一明 氏

荏原平塚学園校長

青木 経 氏

中学校PTA連合会長

中島 葉月 氏

保護者代表



である中島会長からの、義務教育学校設置による小・中学校への影響、後期課程から転入学する生徒の対応についての質問で幕をあげ、青木校長からは、現場の実態を踏まえ、質問に答える形で、小中一貫教育の更なる推進が区内全校の教育の質の向上につながることや、後期課程から入る生徒に配慮した小学校からの取組等について紹介がありました。

終わりに、木岡教授から、義務教育学校設置による懸念と、解決のための小中、小中連携による指導方法や内容の共有の推進について助言がありました。また、学校を選ぶ自由とそのため情報提供が必要であることが、課

題として挙げられました。

テーマ2

「品川コミュニティ・スクール」の実施

筑波大学教授

窪田 眞二 氏

浜川小学校 校長

矢田 雅久 氏

浜川中学校地域コーディネーター

巻島 淳子 氏



まず、巻島コーディネーターからは、初めての業務に取り組んだ苦労や工夫について話がありました。

続いて矢田校長から教職員の受け止め方の変化や、学校支援地域本部が入ったことによる教育内容の充実について話題提供がありました。

最後に、窪田教授からは、コミュニティ・スクールの導入に関して、懸念材料となっている「教職員人事に対する意見具申」の役割について、全国の先行事例をもとにした丁寧な説明がありました。そして、品川コミュニティ・ス

クールの特徴である学校支援の仕組みを取り入れることは、全国的にも二丁ズの高い取組みであるという解説もありました。

テーマ3

次期「品川区教育要領」の策定

筑波大学教授

樋口 直宏 氏

最後に登壇した樋口教授からは、品川区が独自にカリキュラムを作成し、実施してきたことが評価されました。

また、学習指導要領の改訂のポイントとなる教科の枠にとられない資質・能力の育成、独自に実施している内容とアクティブ・ラーニング等の学習方法との関連など、次期「品川区教育要領」の策定に向けた助言がありました。



この後、6つの教育課題に分かれての分科会が行われ、熱心な協議が続いていました。